

Gigabit Ethernet LAN Adapter for PCI

CentreCOM® LA1000-PCI-SX

ユーザーマニュアル

CentreCOM®
LA1000-PCI-SX

ユーザーマニュアル

©2000 アライドテレシス株式会社

安全のために



必ずお守りください

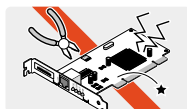


警告

下記の注意事項を守らないと火災・感電により、死亡や大けがの原因となります。

分解や改造をしない

本製品は、取扱説明書に記載のない分解や改造はしないでください。火災や感電、けがの原因となります。



分解禁止

雷のときはケーブル類・機器類にさわらない

感電の原因となります。



雷のときはさわらない

異物、水は禁物

火災や感電の恐れがあります。水がかかったり、異物が触れないように注意してください。万一水がかかったり、異物が触れた場合は、電源プラグをコンセントから抜いてください。(当社のサポートセンターまたは販売店にご連絡ください。)



異物厳禁

通風口はふさがない

内部に熱がこもり、火災の原因となります。



ふさがない

湿気やほこりの多いところ、油煙や湯気のあたる場所には置かない

内部回路のショートの原因になり、火災や感電の恐れがあります。



設置場所注意

取り付け・取り外しのときは電源プラグを抜く

電源プラグをコンセントに差したままでは、コンピュータに電気が流れています。感電の恐れがありますので、取り付け、取り外し作業を行う前には、必ず電源プラグを抜いてください。



プラグを抜く

設置・移動のときは電源プラグを抜く

感電の原因となります。



光源をのぞきこまない

目に障害が発生する場合があります。
光ファイバーケーブルのコネクタ、ケーブルの断面、製品本体のコネクタなどをのぞきこまないでください。



ご使用にあたってのお願い

次のような場所での使用や保管はしないでください。

- ・直射日光の当たる場所
- ・暖房器具の近くなどの高温になる場所
- ・急激な温度変化のある場所（結露するような場所）
- ・湿気の多い場所や、水などの液体がかかる場所（湿度 95% 以下の環境でご使用ください）
- ・振動の激しい場所
- ・ほこりの多い場所や、ジュータンを敷いた場所（静電気障害の原因になります）
- ・腐食性ガスの発生する場所



静電気注意

本製品は、静電気に敏感な部品を使用しています。部品が静電破壊する恐れがありますので、コネクタの接点部分などに素手で触れないでください。



取り扱いにはていねいに

落としたり、ぶつけたり、強いショックを与えないでください。



お手入れについて

清掃するときは電源を切った状態で

誤動作の原因になります。



お手入れには次のものは使わないでください

- ・石油・みがき粉・シンナー・ベンジン・ワックス・熱湯・粉せっけん
（化学ぞうきんをご使用のときは、その注意書に従ってください。）



シンナー
類不可

0 はじめに

「CentreCOM LA1000-PCI-SX」をお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。このマニュアルは本製品を正しくご使用いただくための手引きです。必要なときにいつでもご覧いただくために、保証書とともに大切に保管していただきますようお願いいたします。

0.1 内容物をご確認ください

本製品パッケージの内容は、下記の通りです（下記以外に添付紙が同梱されている場合があります）。お買い上げ商品についてご確認いただき、万一不足するものがございましたら、お手数ですがお買い求めの販売代理店までご連絡ください。

- ・ LA1000-PCI-SX 本体
- ・ ドライバーディスク（1枚）
- ・ ユーザーマニュアル（本書）
- ・ 製品保証書（3年保証）
- ・ お客様インフォメーション登録カード
- ・ シリアル番号シール

0.2 ドライブ名「A:」「C:」「D:」

本書では、ドライバーのインストール対象となるコンピュータ機種として「AT 互換機または PC98-NX」ドライブ名として下記を仮定して説明しています。ご使用のコンピュータでドライブ名が異なる場合は、ご使用のコンピュータにおけるものと読み替えてください。

- ・ 「フロッピーディスクドライブ」として「A:」
- ・ 「起動ドライブ（ハードディスク）」として「C:」
- ・ 「CD-ROM ドライブ」として「D:」

目次

0	はじめに	4	5	ネットワークのトラブル	29
0.1	内容物をご確認ください	4		LINK LED は点灯していますか？	29
0.2	ドライブ名「A:」「C:」「D:」	4		LINK LED は点灯しているが	29
1	概要	6		自己診断テスト	30
1.1	特長	6	A	付録	30
1.2	各部の名称と働き	6	A.1	製品仕様	30
1.3	動作環境	7	A.2	MAC アドレス	31
1.4	ドライバディスク	7	B	保証	31
2	取り付け・取り外し・配線	7		保証の制限	31
2.1	コンピュータへの取り付け	7	C	ユーザーサポート	31
2.2	コンピュータからの取り外し	8	C.1	調査依頼書のご記入にあたって	31
2.3	ネットワークへの接続	8		ハードウェアとソフトウェア	31
3	Windows NT Ver. 4.0	9		お問い合わせ内容	31
3.1	インストール時のご注意	9		接続の構成図	32
3.2	用意するもの	9	C.2	システムレポートの出力方法	32
3.3	サービスパックの確認	9		Windows NT Version 4.0 の場合	32
3.4	ドライバインストール	10		Windows 2000	32
	TCP/IP の設定	11	C.3	最新ドライバーソフトウェアの入手方法	33
	サービスパックのインストール	13		ホームページからの入手	33
3.5	リソース値の確認	13		フロッピーディスクでの入手	33
3.6	本製品を一時的に使用しない	14	D	ご注意	36
3.7	ドライバーの削除	14	E	商標について	36
3.8	ドライバーの再インストール	15	F	マニュアルバージョン	36
3.9	ドライバーの設定	15			
	LA1000-PCI-SX Properties	15			
	LA1000-PCI-SX Advanced Properties	15			
	LA1000-PCI-SX VLAN Properties	16			
	LA1000-PCI-SX Diagnostics	17			
4	Windows 2000	18			
4.1	用意するもの	18			
4.2	アップデートインストール	18			
4.3	ドライバーの新規インストール	18			
4.4	TCP/IP の設定	22			
4.5	ドライバーの更新	24			
4.6	本製品を一時的に使用しないとき	26			
	使用を再開する	27			
4.7	ドライバーの削除（本製品の取り外し）	27			
4.8	ドライバーの設定	28			
4.9	トラブルシューティング	28			
	本製品のプロパティに「詳細」タブがある	28			
	「近くのコンピュータ」が表示されない	28			

1 概要

CentreCOM LA1000-PCI-SX (以下 本製品と略します) の特長、使用環境、各部の名称について説明します。

1.1 特長

本製品は、エンタープライズシステムにおけるサーバー用途に最適なギガビットイーサネット LAN アダプターです。本製品の特長は、下記の通りです。

- 32/64 ビット PCI バスマスター転送 (自動 32/64 ビット切り替え)
- Packet Propulsion (小さなパケットが連続するとき、コンピュータの I/O 処理の負荷を低減)
- 大容量の First-In First-Out バッファを搭載 (送信 32K、受信 64K)
- ブラグ & プレイ (PCI ローカルバス仕様 Rev.2.1 準拠)
- 全二重通信モード (半二重通信モードではキャリア・エクステンション機能、パケット・バースティング機能をサポート)
- ジャンボ・フレーム (最大 9KByte までの任意のフレーム長をサポート)
- Auto-Negotiation 機能
- 1000BASE-SX¹ (SC コネクター)

1. 10/100Mbps はサポートしておりません。

1.2 各部の名称と働き

シリアル番号シール

製品のシリアル番号 (製造番号) とリビジョンコードが記載されています。これらはユーザーサポートへの問い合わせの際に必要となります。

MAC アドレスラベル

各製品に固有の MAC アドレスが記載されています。詳細は、「A.2 MAC アドレス」(p.31) をご覧ください。

ランプ

動作状態を 4 個のランプ (LED) で表示します。

LINK (緑)

本製品と接続先機器 (スイッチなど) との間でリンクが成立すると点灯します。

1000M (緑)

常時点灯しています (1000Mbps で通信が行われているときに点灯します)。

FDX (緑)

本製品が接続先機器と全二重で接続しているとき点灯します。

TX/RX (緑)

本製品がパケットを送受信すると点灯します。

1000BASE-SX コネクター

光ファイバーケーブルを接続するコネクターです。詳細は、「2.3 ネットワークへの接続」(p.8) をご覧ください。

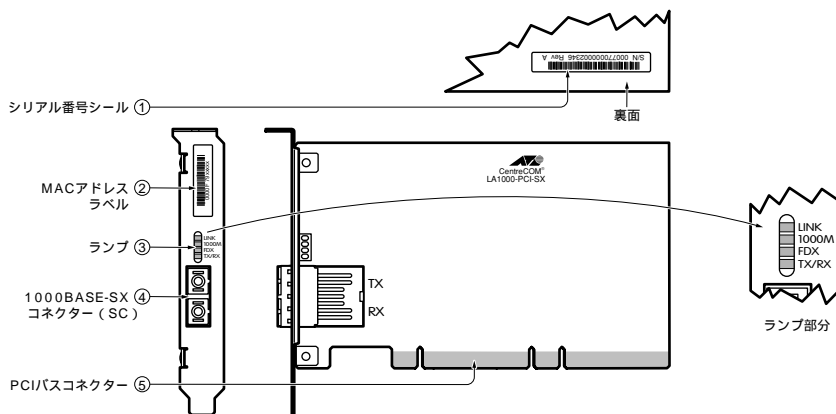


図 1.2.1 外観と各部の名称

PCIバスコネクター

本製品をコンピュータに取り付けるためのインタフェース・コネクターです。この部分は素手で触らないようにしてください。

1.3 動作環境

本製品は、次の条件を満たす環境¹でご使用ください。

- 266MHz以上の、Pentium II相当またはそれ以上のCPUを搭載したAT互換機またはNEC PC98-NX
- 64MB以上のRAMを持つこと
- バスマスター用の32bitまたは64bit PCIローカルバス拡張スロット(Rev.2.0以上)を持つこと
- 最新のBIOSを搭載していること
- オペレーティングシステム(OS)²
 - Windows NT Version 4.0 (Service Pack 5以上)³
 - Windows 2000

1.4 ドライバーディスク

本製品には、次のドライバーディスクが付属しています。

- AT互換機/NEC PC98-NX用

必ず、ドライバーディスクに含まれる「README」ファイルをお読みください。「README」には、このマニュアルに記載されていない最新の情報が記載されています。

2 取り付け・取り外し・配線

以下に示す手順にしたがい、本製品のコンピュータへの取り付け、取り外し、ネットワークへの接続(配線)を行ってください。コンピュータ本体のカバーの取り外し・アダプターの取り付けの詳細は、ご使用になるコンピュータのマニュアルをご覧ください。



コンピュータの拡張スロットへの本製品の取り付け・取り外しは、必ず電源プラグを電源コンセントから抜いて行ってください。一部のコンピュータは、電源プラグを抜かなければ完全に電源は切れませんが、電源プラグを抜かずこの作業を行うとコンピュータや本製品の故障の原因となることがあります。



本製品は、静電気に敏感な部品を使用しています。部品が静電破壊する恐れがありますので、PCIバスコネクターの接点部分、部品などに素手で触れないでください。

2.1 コンピュータへの取り付け⁴

- 1 実行しているオペレーティングシステムをシャットダウンし、コンピュータの電源をオフにしてください。
- 2 コンピュータの電源プラグを電源コンセントから抜いてください。
- 3 コンピュータの本体カバーを外してください。
- 4 スロットカバーを固定しているねじを外し、スロットカバーを外してください。
- 5 本製品をコンピュータの64bitまたは32bit⁵のバス・マスタ用拡張スロットにしっかりと奥まで挿し込んでください。
- 6 4で外したねじを使用して、本製品を固定してください。このねじは必ず取り付けてください。
- 7 コンピュータの本体カバーを取り付けてください。

1. 本製品を使用中は、レジューム機能は使用しないでください。本製品を使用中にコンピュータがサスペンド状態になった場合、通信の切断や、その他予期しない障害が発生する可能性があります。
2. 日本語版のみに対応。
3. x86版のみに対応。

4. Windows NT(OS)をインストールする場合、本製品を取り外した状態でOSのインストールを終え、その後本製品を取り付けて、ドライバーのインストールを行うことをお勧めします。OSのインストールとともに本製品のインストールを行った場合、ハードウェアリソースの重複が発生したとき、重複の回避に手間取ることがあります。
5. 本製品を32bitのバス・マスタ用拡張スロットに取り付ける場合、本製品のPCIバスコネクターの64bit拡張部分が拡張スロットからはみ出します。はみ出した部分がマザーボード上の部品などに当たらないようにご注意ください。

2.2 コンピュータからの取り外し

- 1 コンピュータへの取り付け手順の 1 - 3 と同様にして、コンピュータの本体カバーを外します。
- 2 本製品を固定しているねじを外します。
- 3 本製品をゆっくり引き抜きます。
- 4 スロットカバーを元どおりに取り付けてください。
- 5 コンピュータの本体カバーを取り付けてください。

2.3 ネットワークへの接続



稲妻が発生しているとき、本製品やケーブルの設置などの作業を行わないでください。落雷により、感電する恐れがあります。



本製品の光コネクタ、光ケーブルの断面やコネクタをのぞき込まないでください。強力な光源を使用しているため、目に障害が発生する恐れがあります。

本製品のネットワークへの接続は、マルチモード光ファイバーケーブルを使用します。次の表をご覧ください。必要な伝送距離を満たすために適切なケーブルをご使用ください。

表 2.3.1 光ファイバーケーブルの仕様

	1000BASE-SX			
波長 [nm]	850			
ファイバー タイプ	マルチモード光ファイバー (MMF)			
コア径 [μm]	50	62.5		
伝送損失 [dB/km]	3.5	3.75		
伝送帯域 [MHz・km]	400	500	160	200
伝送距離 [m]	2 ~ 500	2 ~ 550	2 ~ 220	2 ~ 275

マルチモード光ファイバーケーブルは、2 本で一対となっています。本製品の TX を接続先機器の RX に、本製品の RX を接続先機器の TX に接続します。^{1 2}

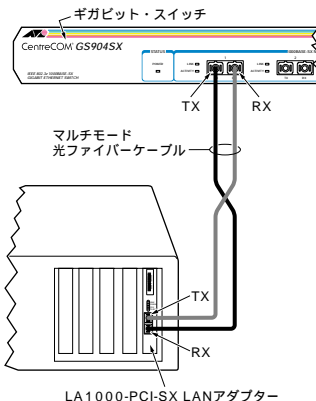


図 2.3.1 マルチモード光ファイバーケーブルの接続

1. 接続は、光ファイバーケーブルのコネクタ親指と人差し指でつまみ、本製品や接続先機器の 1000BASE-SX コネクタに挿入して、カチッとショックがあるまで差し込んでください。
2. 取り外しは、ケーブルのコネクタを人差し指と親指でつまみ引き抜いてください。

3 Windows NT Ver. 4.0

本製品のドライバーをWindows NT Ver. 4.0上にインストールする手順を説明します。本書では、下記の条件を仮定したインストール例を示します。

- ネットワークアダプター用ドライバーを含むネットワーク環境は、全くインストールされておらずこれからインストールします。
- Windows NT Ver. 4.0 Workstation を使用し、Windows NT が要求する問い合わせに対して、基本的にデフォルトで答えます。

3.1 インストール時のご注意

本製品のインストールを始める前に、以下のことをご確認ください。各操作・設定の手順についてはWindows NTのマニュアル・ヘルプをご覧ください。



注意

本製品のインストールをWindows NTのインストールと同時に行うことは避けてください。必ず、Windows NTのインストールを完了したあとで、本製品のインストールを行ってください。Windows NTはPlug & Playをサポートしていないため、Windows NTと本製品のインストールを同時に行った場合、Windows NTのインストール中に本製品が使用するハードウェアリソースが他のデバイスと重複するおそれがあり、重複の回避に手間取ることがあります。



注意

Windows NTのハードウェア互換性リスト(Windows NTパッケージに同梱されています)に挙げられていないコンピュータ機種で本製品をご使用になる場合は、お客様の責任においてご使用ください。それらのコンピュータ機種で本製品をご使用になる場合は、ユーザーサポートの対象外とさせていただきますので予めご了承ください。



注意

PC98-NXにインストールされたWindows NTのもとで本製品をご使用になる場合、NECによって保証されていないインストール環境でのご使用は、お客様の責任において行ってください。それらの環境で本製品をご使用になる場合は、ユーザーサポートの対象外とさせていただきますので予めご了承ください。



注意

本マニュアルに記載した内容は一例であり、お客様の使用するコンピュータやネットワーク環境によって、手順や表示画面が異なることがあります。予めご了承ください。

3.2 用意するもの

- LA1000-PCI-SX アダプター本体、光ファイバーケーブルなど
- コンピュータ (Windows NT 4.0 インストール済み)
- Windows NT のCD-ROM
- LA1000-PCI-SX ドライバーディスク (本製品に付属)
- Windows NT サービスパック

3.3 サービスパックの確認

ドライバーのインストールを行う前に、Windows NTのサービスパックの番号を確認し、必要なサービスパックを用意してください。

- 「Windows NT 診断プログラム」を起動してください。

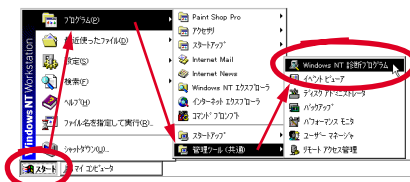


図 3.3.1

- 「バージョン」で「Service Pack」の番号を確認してください。

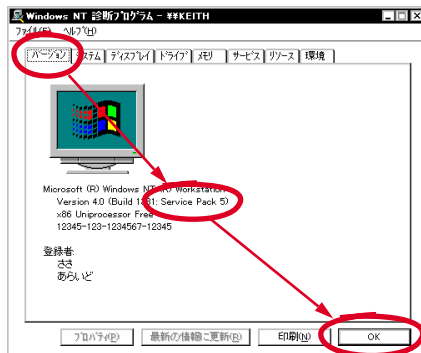


図 3.3.2

- ドライバーは常に最新のものをご使用ください。最新のドライバー入手方法は、「C.3 最新ドライバーソフトウェアの入手方法」(p.33)をご覧ください。

3.4 ドライバーインストール

1 「コントロールパネル」を開きます。

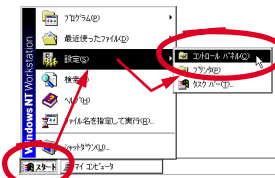


図 3.4.1

2 「ネットワーク」をダブルクリックしてください。

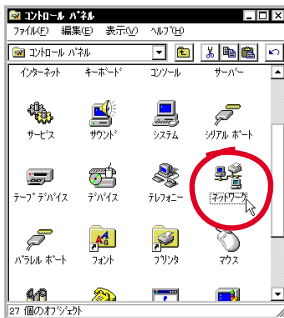


図 3.4.2

3 「はい」をクリックしてください。¹

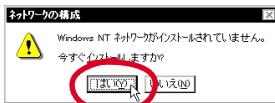


図 3.4.3

4 「ネットワークに接続」をチェックし、「次へ」をクリックしてください。

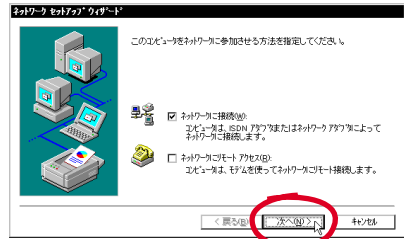


図 3.4.4

5 「一覧から選択」をクリックしてください。

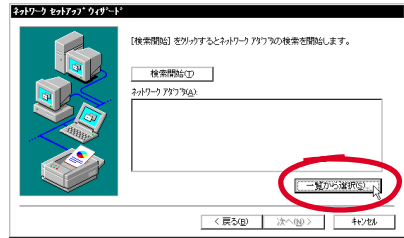


図 3.4.5

6 「ディスク使用」をクリックしてください。

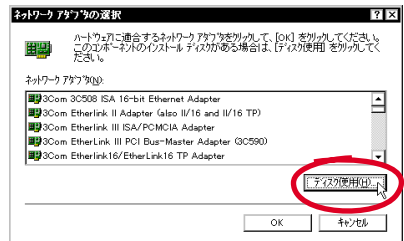


図 3.4.6

7 「ドライバディスク」をフロッピーディスクドライブに入れ、「A:¥」を入力して、「OK」をクリックしてください。

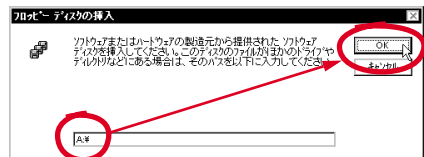


図 3.4.7

1. 「Windows NT ネットワークのインストール」で「まだネットワークに接続しない (D)」を選択したとき、このダイアログが表示されます。このダイアログではなく「ネットワーク」パネルが表示された場合は、既にネットワークに関する WindowsNT ファイルがインストールされています。この場合は「ネットワーク」パネルの「アダプタ」タブ 「追加」と進むと、手順5の「ネットワークアダプタの選択」が表示され、本製品のためのインストールが始まります。

8 「Allied Telesis LA1000-PCI-SX Gigabit Adapter」をクリックし、「OK」をクリックしてください。

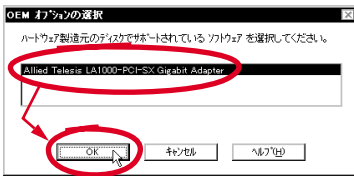


図 3.4.8

9 「Allied Telesis LA1000-PCI-SX Gigabit Adapter」をチェックし、「次へ」をクリックしてください。

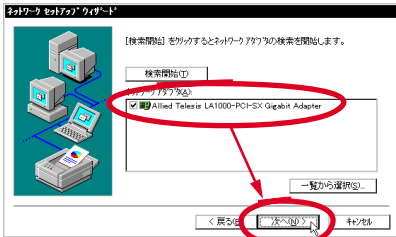


図 3.4.9

10 お客様の LAN 環境で使用されているネットワークプロトコルを選択してください。ここでは「TCP/IP プロトコル」だけを使用すると仮定します。「次へ」をクリックしてください。

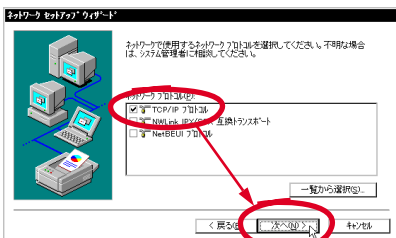


図 3.4.10

11 「ネットワークサービス」を設定してください。ここでは、Windows NT のデフォルトを仮定します。「次へ」をクリックしてください。

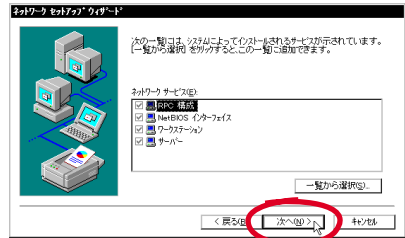


図 3.4.11

12 「次へ」をクリックしてください。

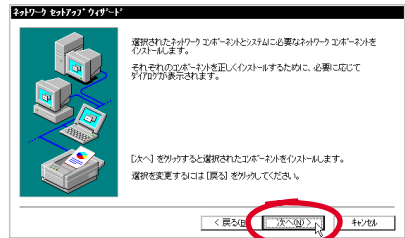


図 3.4.12

13 Windows NT の CD-ROM を CD-ROM ドライブに入れ、「D:\#1386」を入力して、「続行」をクリックしてください。ここでは、CD-ROM ドライブを「D:」と仮定しています。

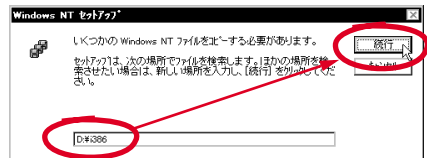


図 3.4.13

TCP/IP の設定

14 「いいえ」をクリックします (Windows NT のデフォルトを仮定します)。

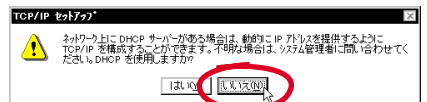


図 3.4.14

1. お客様の LAN 環境が DHCP によって運用されている場合、「はい」を選択してください。

- 15 「IP アドレス」をクリックし、「IP アドレス」「サブネットマスク」「デフォルトゲートウェイ」を入力してください。これらの数値は、お客様の環境におけるものを入力してください。¹

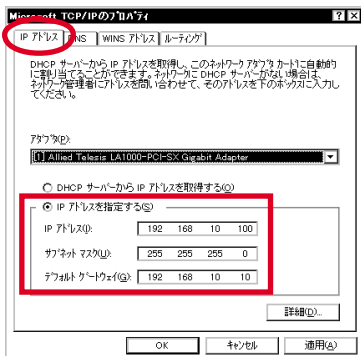


図 3.4.15

- 16 「DNS」をクリックし、「ホスト名」「ドメイン」「DNS サービスの検索順序」「ドメインサフィックスの検索順序」を入力してください。

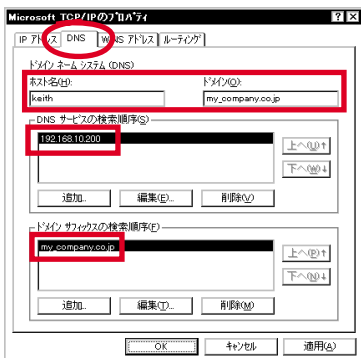


図 3.4.16

- 17 「WINS アドレス」をクリックしてください。WINS サーバーが存在する場合は、「プライマリ WINS サーバー」「セカンダリ WINS サーバー」の IP アドレスを入力してください。ここでは、「Windows 名前解決に DNS を使う」を仮定しました。

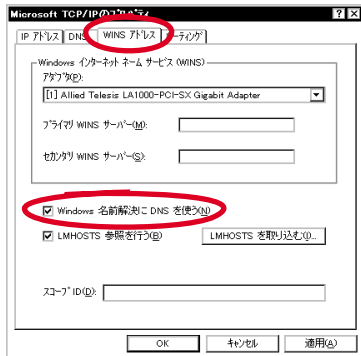


図 3.4.17

- 18 15 ~ 17 で必要な項目を入力したら、「OK」をクリックしてください。

- 19 次のような警告が表示されたら、「はい」をクリックしてください。

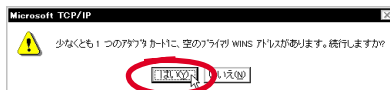


図 3.4.18

- 20 「次へ」をクリックしてください。

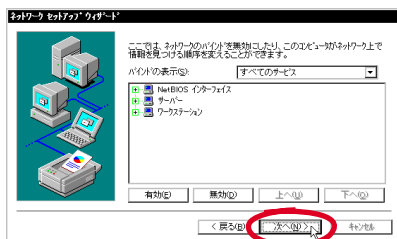


図 3.4.19

1. Windows NT Server の場合、「DHCP リレー」タブがあります。詳細は、Windows NT Server のオンラインヘルプ、マニュアルをご覧ください。

21 「次へ」をクリックしてください。

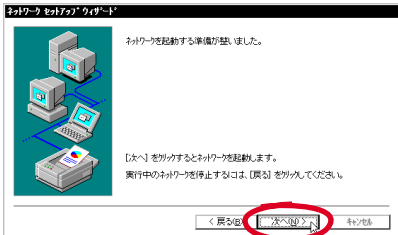


図 3.4.20

22 「次のメンバー」に「ワークグループ名」または「ドメイン名」を入力してください。「コンピュータ名」は 16 で入力した「ホスト名」が入力されています。「次へ」をクリックしてください。

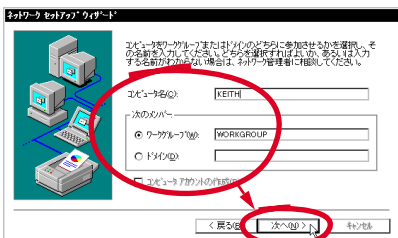


図 3.4.21

23 「完了」をクリックしてください。



図 3.4.22

サービスパックのインストール

24 「いいえ」をクリックしてください。

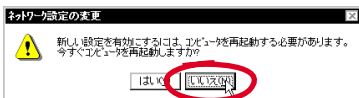


図 3.4.23



重要 本製品のドライバーをインストールすると、サービスパックによってインストールされていた WindowsNT の最新のファイルが、CD-ROM の古いバージョンのファイルによって上書きされます。サービスパックをインストールしている場合、コンピュータを再起動する前に必ずサービスパックの再インストールをしてください。サービスパックをインストールせずにコンピュータを再起動すると、WindowsNT が起動できなくなることがあります。

25 「3.3 サービスパックの確認」(p.9)で用意したサービスパックをインストールしてください。

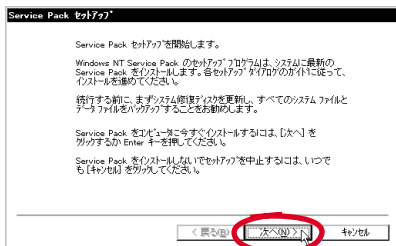


図 3.4.24

26 指示にしたがってインストールを実行し、次のダイアログが表示されたら、「OK」をクリックしてください。

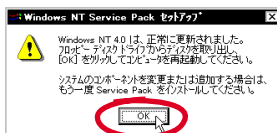


図 3.4.25

3.5 リソース値の確認

ドライバーをインストールしコンピュータを再起動すると、本製品に対してリソースが割り当てられます。これらの値は PCI ローカルバス仕様により、コンピュータによって自動的に設定され、管理されます。割り当てられた値を確認するには Windows NT 診断プログラムをご使用ください。

「スタート」「プログラム」「管理ツール」「Windows NT 診断プログラム」と進み、「リソース」をクリックしてください。本製品 (LGSND) に割り当てられた IRQ、I/O などのリソースを確認することができます。¹⁾

1. コンピュータに予め組み込まれているデバイスの中には「Windows NT 診断プログラム」上に表示されないものもあります。コンピュータのマニュアルと「Windows NT 診断プログラム」の 2 つを用いて確認を行ってください。

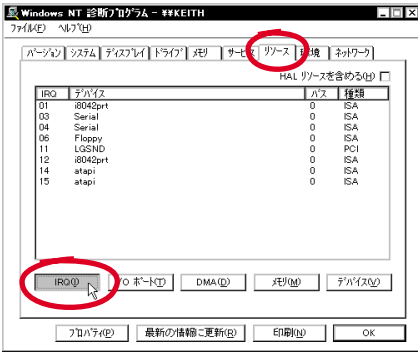


図 3.5.1

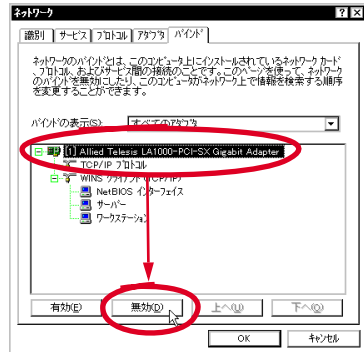


図 3.6.1

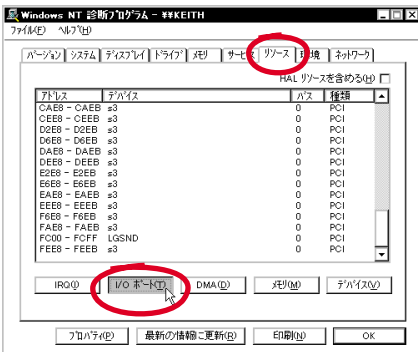


図 3.5.2

3 次のように禁止のマークが付きまます。¹

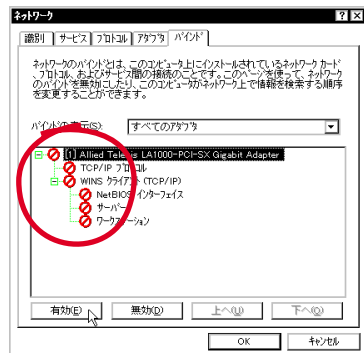


図 3.6.2

3.6 本製品を一時的に使用しない

ドライバーのインストール後、一時的に本製品を使用しないとき、例えば光ファイバーケーブルを本製品から外しているなどの場合は、ドライバーをアンロードしてください。ドライバーがロードされたままにしておくと、Windows NT はこれらの現象をネットワークのエラーとして検出し、イベントビューアによる警告が表示されるようになります。この現象はドライバーをアンロードする（バインドしない）ことによって回避できます。

- 1 「コントロールパネル」 「ネットワーク」をダブルクリックしてください。
- 2 「バインド」をクリックし、「すべてのアダプタ」を選択してください。「Allied Telesis LA1000-PCI-SX Gigabit Adapter」をクリックし、「無効」をクリックしてください。

4 「OK」をクリックし、「ネットワーク」ウィンドウを閉じてください。

3.7 ドライバーの削除

本製品の登録内容を削除する手順は以下のとおりです。ただし、ドライバーを削除しても、本製品にバインドしていたプロトコルやサービスは削除されません（一部の設定値、例えばTCP/IPにおけるIPアドレスなどは削除されます）。したがって、本製品を再インストールすれば、再びそれらのプロトコル、サービスなどを使用できます。

1 「コントロールパネル」 「ネットワーク」をダブルクリックしてください。

1. 使用を再開する場合は、「Allied Telesis LA1000-PCI-SX Gigabit Adapter」をクリックし、「有効」をクリックしてください。

- 2 「アダプタ」をクリックしてください。
 「Allied Telesis LA1000-PCI-SX Gigabit Adapter」をクリックし、「削除」をクリックしてください。

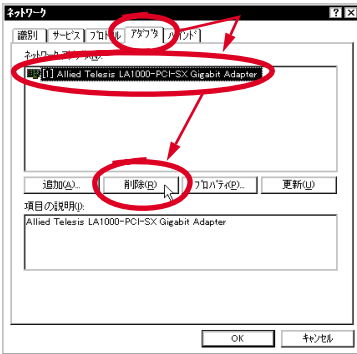


図 3.7.1

- 3 「はい」をクリックし、再起動してください。

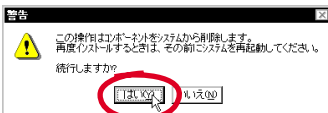


図 3.7.2

3.8 ドライバーの再インストール

ドライバーを再インストールする手順は以下の通りです。

- 1 「3.7 ドライバーの削除」(p.14) の手順にしたがい本製品のドライバーを削除します。
- 2 「コントロールパネル」の「ネットワーク」をダブルクリックし、「アダプタ」タブで「追加 ..」をクリックしてください。「3.4 ドライバーインストール」(p.10) の手順 6 から再開することになります。

3.9 ドライバーの設定

「コントロールパネル」「ネットワーク」「アダプタ」と進み(「図 3.7.1」(p.15)) 本製品を選択してから「追加」をクリックすると、設定ウィンドウが現れます。

LA1000-PCI-SX Properties

本製品の設定情報の表示と Locally Administered Network Address の設定を行います。

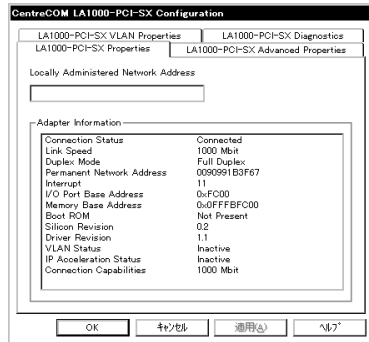


図 3.9.1

Locally Administered Network Address

本製品の MAC アドレスとして、この欄に入力された MAC アドレスを使用します¹。この欄が空欄の場合、MAC アドレスは「Adapter Information」の「Permanent Network Address」です。

Adapter Information

本製品の設定情報を表示します。

LA1000-PCI-SX Advanced Properties

本製品に関する高度な設定を行います。

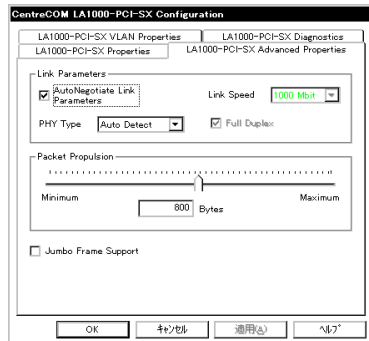


図 3.9.2

Link Parameters

Auto-Negotiation 機能または通信モード (Duplex) を手動で設定することができます。

1. テスト環境で暫定的に変更する場合などに便利です。しかしながら、通常の運用では「Permanent Network Address」を使用すべきです。同じ MAC アドレスを持つ機器が同一のネットワークに接続されると、ネットワークダウンなどの障害が発生します。

Auto Negotiate Link Parameters

この項目をチェック「✓」した場合（デフォルト）「Link Speed」、「PHY Type」、「Full Duplex」は自動的に設定されます（接続先機器が Auto-Negotiation に設定されていれば、2 者間で可能な最高の速度となります）。通常は、この項目をチェックしてご使用ください。

Link Speed

「1000 Mbit」だけが選択可能です。

PHY Type

「PHY Type」（ネットワークへの物理的接続）を設定します。「Auto Negotiate Link Parameters」がチェックされている場合、「Auto Detect」と「PCS」（Physical Coding Sublayer）が選択可能となり、デフォルトで「Auto Detect」が選択されます。「Auto Negotiate Link Parameters」がチェックされていない場合、選択肢は「PCS」だけとなります。

Full Duplex

この項目をチェックすると「全二重」、チェックを外すと「半二重」となります。「Auto Negotiate Link Parameters」がチェックされている場合、自動設定されるため変更できません。

Packet Propulsion

送信を開始する条件となる送信 FIFO（バッファ）のしきい値を設定します。小さなパケットの送信要求が、単位時間内に数多く発生しているとき、送信要求ごとにパケットを送信せず、複数のパケットを送信 FIFO にため込み、しきい値を越えた時点でまとめて送信します。しきい値よりも大きなサイズのパケットは通常の方法で送信されます。PCI バス上のデータ転送をひとつにまとめることができるため、小さなパケットにおけるスループットを増加させることができます。

スライダーまたはテキスト入力欄でパケットサイズのしきい値を 0 ~ 1514 の範囲で設定してください（デフォルト値は 800、「Jumbo Frame Support」がチェックされている場合は、0 ~ 9014）。

Packet Propulsion と通常の送信方法の間には妥協点があります。通常の方法は多くの CPU リソースを使いますが、Packet Propulsion は多くのバスリソースを使用します（一定時間バスを占有）。特定の環境における最適なしきい値は、コンピュータのハードウェア、PCI バス上の他のデバイス、実行しているアプリケーションなど色々な要因に依存します。複雑な要因のすべてを考慮し、Packet Propulsion しきい値の実験をして、お客様の環境における本製品のパフォーマンスを最大にする設定を見つけてください。

Jumbo Frame Support

この項目をチェックした場合、ジャンボフレームを使用します（デフォルトはチェックなし）。ジャンボフレームの使用により、イーサネットの最大フレームサイズは 1514 から 9014 になります。ジャンボフレームの使用は、パケット処理のオーバーヘッドを大幅に縮小するで、バルクデータ転送におけるパフォーマンスを大幅に改善します。

しかしながら、ジャンボフレームを使用するためには、通信相手となるコンピュータの LAN アダプターがこの機能に対応していなければなりません。また全二重においては、両方のコンピュータの通信が経路するスイッチのすべてがジャンボフレームに対応している必要があります。半二重においては、コリジョンドメインに存在する機器のすべてがジャンボフレームに対応している必要があります。

LA1000-PCI-SX VLAN Properties

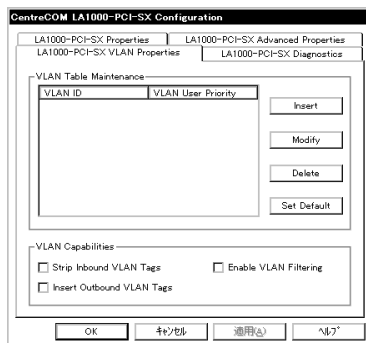


図 3.9.3

VLAN Table Maintenance

VLAN テーブルは、16 エントリーの VLAN ID、優先レベル（User Priority）を設定できます。VLAN ID は、0 ~ 4095 の範囲で指定します。「0」を指定した場合、「プライオリティ・タグ・フレーム」として扱われます。「1」を指定した場合、「デフォルト VLAN」となります。優先レベル（User Priority）は、「0 ~ 7」（低 ~ 高）の範囲で指定します。

「Insert」のクリックでテーブルにエントリーを追加します。「Modify」「Delete」は、テーブルのエントリーを編集、削除します。

テーブルの先頭（1 番目）のエントリー¹は、本製品から送信される（outbound）タグ付き VLAN フレームで使用される VLAN ID です。「Enable VLAN Filtering」がチェックされていた場合、テーブルに登録されてい

1. 単一の VLAN でのみご使用が可能です。

ない VLAN ID を持つフレームを受信したとき (in-bound) フレームはフィルタリングされます。本製品が接続されているスイッチポートは、テーブルの先頭で指定した VLAN グループにアサインされているか、GVRP によって自動的な VLAN 登録が許可されていないければなりません。

VLAN Capabilities

VLAN のタグ付けをコントロールする 3 つのチェック項目があります。これらの項目を変更した場合、変更を有効にするために、コンピュータを再起動しなければなりません。

Strip Inbound VLAN Tags

この項目をチェックすると、タグ付きの受信フレームのすべては通常のフレームとして処理されます (デフォルトはチェックなし)。

Enable VLAN Filtering

この項目をチェックすると、タグ情報 (VLAN ID) による受信パケットのフィルタリングを行います (デフォルトはチェックなし)。

Insert Outbound VLAN Tags

この項目をチェックすると、本製品から送信されるフレームのすべてに、テーブルの先頭の VLAN ID を追加します (デフォルトはチェックなし)。

LA1000-PCI-SX Diagnostics

本製品の基本的な機能のテスト (自己診断) や、ネットワークを経由した他の LAN アダプターとの通信をテストします。

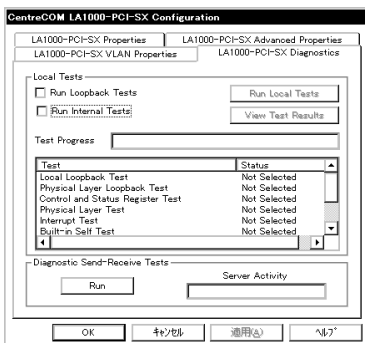


図 3.9.4

Local Test

本製品の基本的な機能のテストを行います。「Run Loopback Tests」「Run Internal Tests」の両方またはどちらか一方をチェックします。実行されるテストは、「Test」リストボックスの「status」が「Ready」となっています。「Run Local Tests」をクリックする

と、テストが開始されます。「Test Progress」にテストの進行状況が表示されます。テストが完了して、「View Test Results」をクリックすると、テスト結果が表示されます。

Diagnostic Send-Receive Tests

テストには本製品が取り付けられた 2 台のコンピュータが必要です。1 台目のコンピュータでテストメッセージを作成し送信します。2 台目のコンピュータはテストメッセージを受信し、1 台目のコンピュータに送り返します。¹

2 台目のコンピュータで「CentreCOM LA1000-PCI-SX Configuration」を起動し、この「LA1000-PCI-SX Diagnostics」ページを表示させておきます。1 台目のコンピュータで、このページの「Run」をクリックし、テストメッセージの送信を開始してください。テストの進捗は「Server Activity」に表示されます。テスト結果は、「View Test Results」のクリックで表示されます。

1. 当然のことながら、このテストを行うためには、「Local Test」によって本製品の基本的な機能が動作していないければなりません。

4 Windows 2000

ここにあげる手順は一例であり、お客様の環境によっては、手順や表示画面が異なることがありますので、あらかじめご了承ください。

4.1 用意するもの

- ・ 本製品、光ファイバーケーブルなど
- ・ 本製品のドライバーディスク
- ・ コンピュータ（Windows 2000 インストール済み）

4.2 アップデートインストール

Windows NT から Windows 2000 へのアップデートインストールにおける、本製品ドライバーのインストールや注意点などの情報は、ドライバーディスクの「¥README.2K」をご覧ください。

4.3 ドライバーの新規インストール

新規インストールの大まかな手順は、～ のようになります（～ 実行のとき、Windows 2000 の再起動は不要です）。

本製品をコンピュータに取り付けて、Windows 2000 を起動します。Plug & Play 機能により「Level One」のドライバーがインストールされます。

「Level One」のドライバーを「LA1000-PCI-SX」のドライバーに更新します。

「LA1000-PCI-SX」のドライバーを削除してから、「ハードウェア更新のスキャン」を行い、「LA1000-PCI-SX」のドライバーを再ロードします。¹

以下に詳細な手順を示します。

- 1 Windows 2000 が起動されている場合はシャットダウンしてください。

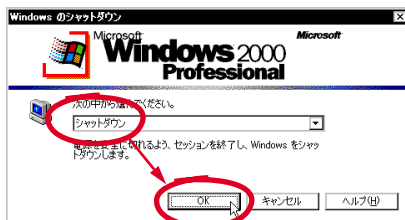


図 4.3.1 シャットダウン

- 2 コンピュータの電源プラグを電源コンセントから抜いてください。
- 3 コンピュータの本体カバーを開け、本製品を拡張スロットに取り付けてください。コンピュータへの取り付けの詳細は、コンピュータのマニュアルをご覧ください。
- 4 本製品をネットワークに接続してください。詳細は、「2.3 ネットワークへの接続」(p.8)をご覧ください。
- 5 コンピュータの電源プラグを電源コンセントに接続し、コンピュータの電源をオンにして、Windows 2000 を起動します。
- 6 「Administrator」権限でログインしてください。

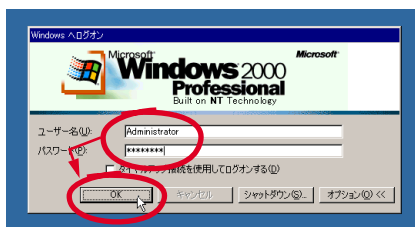


図 4.3.2 Administrator でログイン

1. これを行わないと本製品のプロパティが正しく表示されません。「本製品のプロパティに「詳細」タブがある」(p.28)をご覧ください。

7 「スタート」 「設定」 「コントロールパネル」の「システム」をダブルクリックしてください。

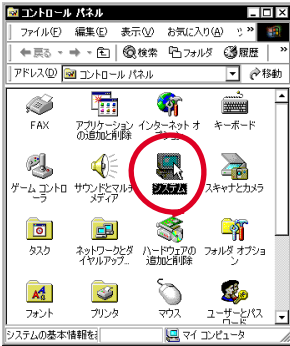


図 4.3.3 システムアイコン

8 「ハードウェア」をクリックし、「デバイスマネージャ」をクリックしてください。

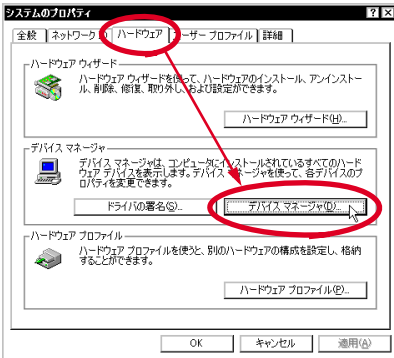


図 4.3.4 システムのプロパティ

9 「Level One Communications NetCelerator Family Adapter」を右クリックし、「プロパティ」をクリックしてください。

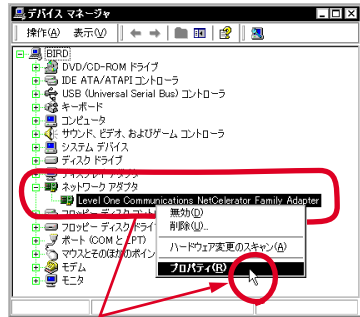


図 4.3.5 デバイスマネージャ

10 「ドライバ」をクリックし、「ドライバの更新」をクリックしてください。

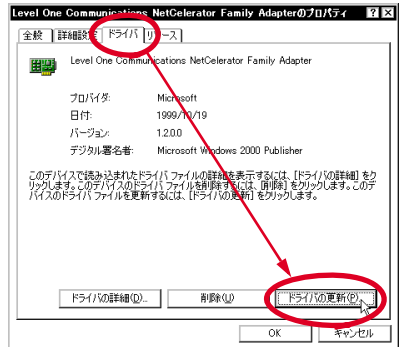


図 4.3.6 本製品のプロパティ

11 「次へ」をクリックしてください。

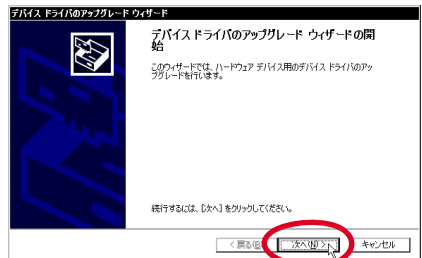


図 4.3.7

1. マウスの「右ボタン」をクリックする操作です。

- 12 「このデバイスの既知のドライバを表示して、その一覧から選択する」を選択し、「次へ」をクリックしてください。

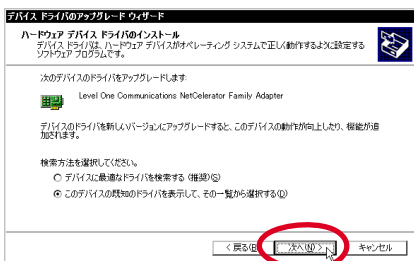


図 4.3.8

- 13 「ディスク使用」をクリックしてください。

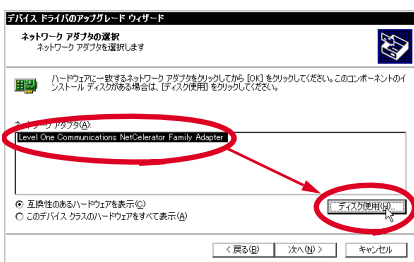


図 4.3.9

- 14 本製品のドライバーディスクをフロッピーディスクドライブに入れてください。¹

- 15 「製造元のファイルのコピー元」に「A:\\$win2000」を入力して、「OK」をクリックしてください。

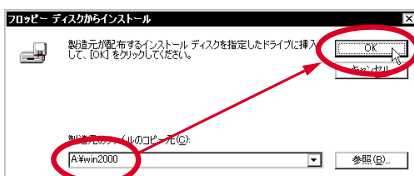


図 4.3.10

- 16 「Allied Telesis LA1000-PCI-SX Gigabit Adapter」を選択し、「次へ」をクリックしてください。

1. ドライバーディスクは、ドライバーのインストールが完了するまで、フロッピーディスクドライブに入れたままにしておいてください。

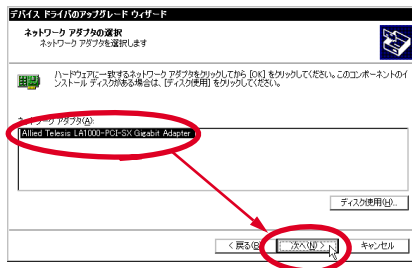


図 4.3.11

- 17 インストールされるドライバーが「LA1000-PCI-SX」のものであることを確認して、「次へ」をクリックしてください。

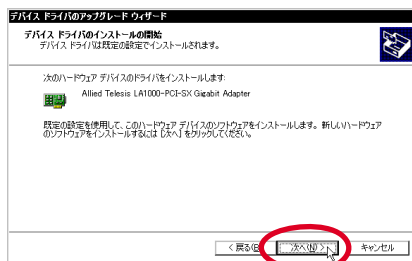


図 4.3.12

- 18 「はい」をクリックしてください（Microsoft デジタル署名はありませんが、正常に動作します）。

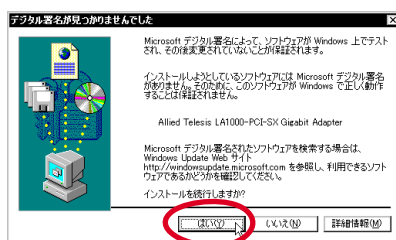


図 4.3.13 デジタル署名

- 19 ドライバーがコピーされます。



図 4.3.14

20 「完了」をクリックしてください。

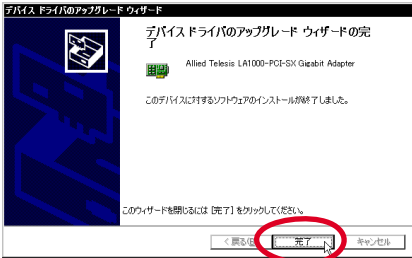


図 4.3.15

21 「閉じる」をクリックしてください。

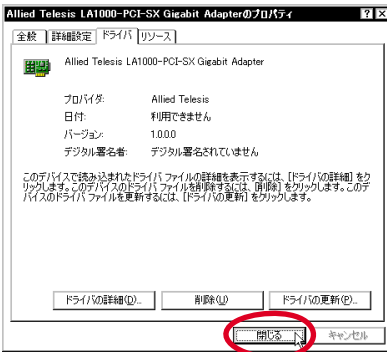


図 4.3.16

22 「Allied Telesis LA1000-PCI-SX LAN Gigabit Adapter」を右クリックし、「削除」をクリックしてください。

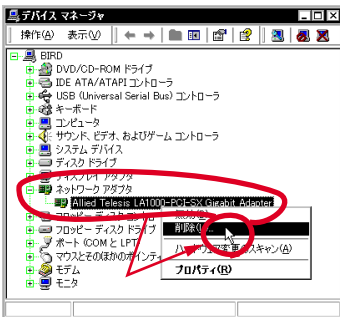


図 4.3.17 本製品の削除

23 「OK」をクリックしてください。

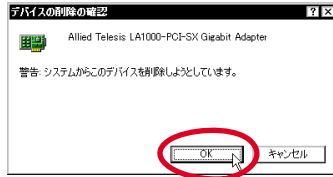


図 4.3.18

24 「Allied Telesis LA1000-PCI-SX Gigabit Adapter」が消えたことを確認してください。画面の一番上にあるコンピュータのアイコンを右クリックしてください(図では「BIRD」)。「ハードウェア変更のスキャン」をクリックしてください。

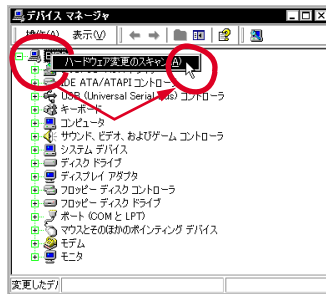


図 4.3.19

25 本製品が検出されます。



図 4.3.20

26 再び、次のダイアログが現れます。「はい」をクリックしてください (Microsoft デジタル署名はありませんが正常に動作します)。

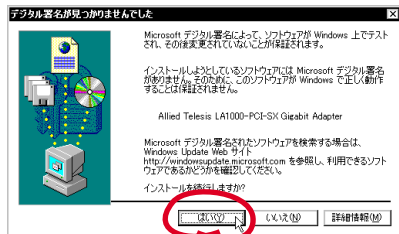


図 4.3.21 デジタル署名

27 「OK」をクリックしてください。

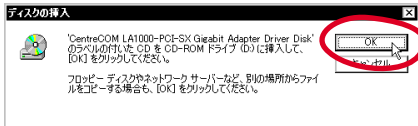


図 4.3.22

28 「A:\win2000」を入力し、「OK」をクリックしてください。

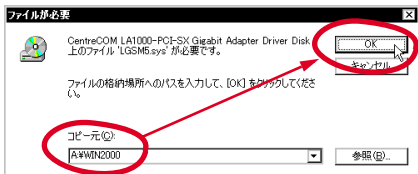


図 4.3.23

29 「Allied Telesis LA1000-PCI-SX Gigabit Adapter」に「！」や「×」が付いていないことを確認して、ウィンドウを閉じてください。

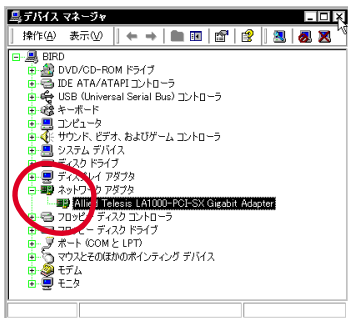


図 4.3.24 デバイスマネージャ

30 以上で本製品のドライバーのインストールは終了です。

4.4 TCP/IP の設定

LAN アダプターの取り付け、ドライバーのインストールを終えたら、お客様の LAN 環境の設定を行います。ここでは、インターネット WEB の参照で必須となる TCP/IP についてだけ説明します。

1 「コントロールパネル」の「ネットワークとダイヤルアップ接続」をダブルクリックしてください。

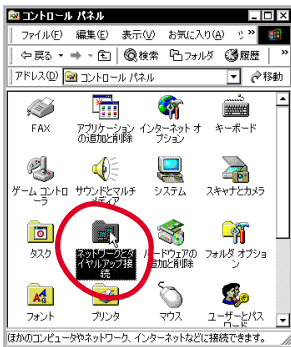


図 4.4.1 ネットワークとダイヤルアップ接続

2 「ローカルエリア接続」をダブルクリックしてください。



図 4.4.2

3 「プロパティ」をクリックしてください。

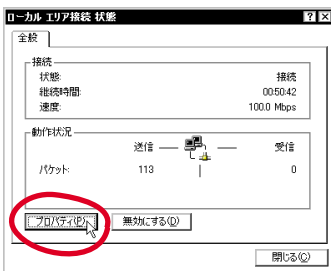


図 4.4.3 ローカルエリア接続状態

- 4 「インターネットプロトコル (TCP/IP)」をクリックし、「プロパティ」をクリックしてください。

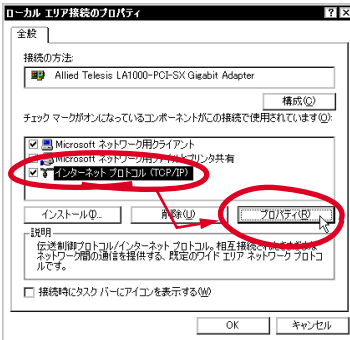


図 4.4.4 ローカルエリア接続のプロパティ

- 5 お客様のローカルエリアネットワーク環境が DHCP サーバーによって運用されている場合、「IP アドレスを自動的に取得する」を選択し、「OK」をクリックしてください。手順 7 に進んでください。

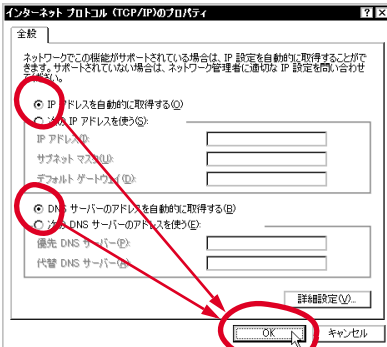


図 4.4.5 TCP/IP のプロパティ

- 6 お客様のローカルエリアネットワーク環境が DHCP サーバーによって運用されていない場合、「IP アドレス」「サブネットマスク」「デフォルトゲートウェイ」「優先 DNS サーバー」「代替 DNS サーバー」の IP アドレスを入力し、「OK」をクリックしてください。手順 7 に進んでください。

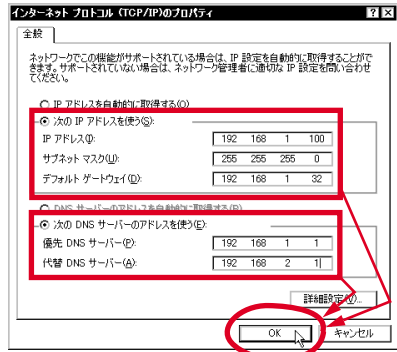


図 4.4.6 TCP/IP のプロパティ

- 7 「OK」をクリックしてください。

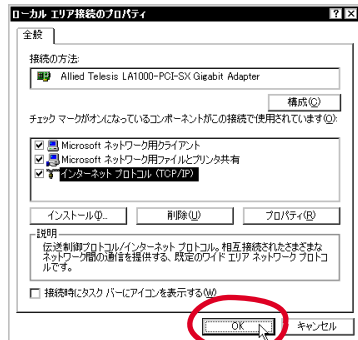


図 4.4.7 ローカルエリア接続のプロパティ

- 8 「閉じる」をクリックしてください。

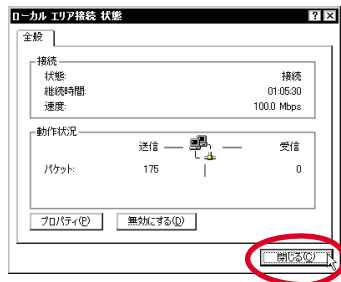


図 4.4.8 ローカルエリア接続状態

4.5 ドライバーの更新

弊社のWEBページなどから最新のドライバーを入手した場合、以下の手順でドライバーを更新してください。

1 「Administrator」 権限でログインしてください



図 4.5.1 Administrator でログイン

2 「スタート」 「設定」 「コントロールパネル」の「システム」をダブルクリックしてください。

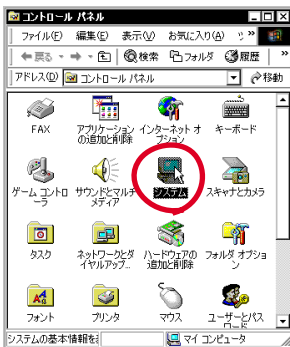


図 4.5.2

3 「ハードウェア」をクリックし、「デバイスマネージャ」をクリックしてください。

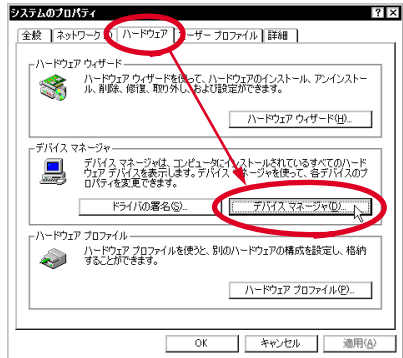


図 4.5.3

4 「Allied Telesis LA1000-PCI-SX Gigabit Adapter」を右クリックし、「プロパティ」をクリックしてください。

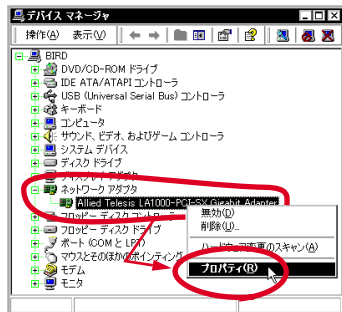


図 4.5.4

5 「ドライバ」をクリックし、「ドライバの更新」をクリックしてください。

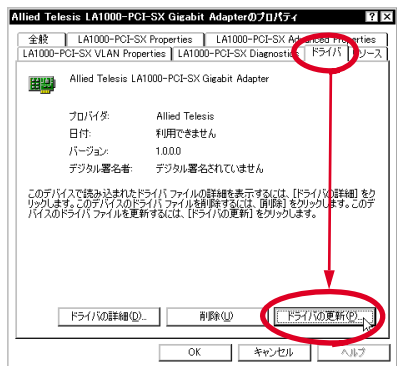


図 4.5.5

6 「次へ」をクリックしてください。

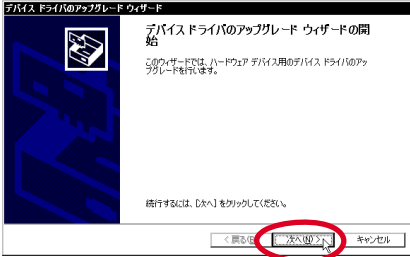


図 4.5.6

7 「このデバイスの既知のドライバを表示して、その一覧から選択する」を選択し、「次へ」をクリックしてください。

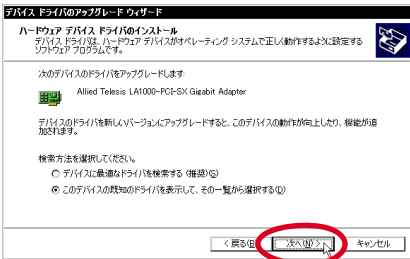


図 4.5.7

8 「ディスク使用」をクリックしてください。

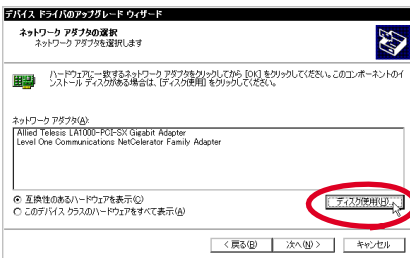


図 4.5.8

9 本製品のドライバーディスクをフロッピーディスクドライブに入れてください。

10 「製造元のファイルのコピー元」に「A:\¥win2000」を入力して、「OK」をクリックしてください。

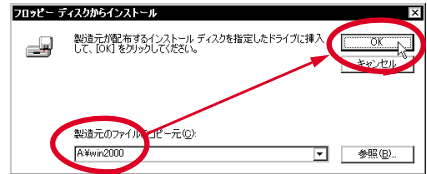


図 4.5.9

11 「Allied Telesis LA1000-PCI-SX Gigabit Adapter」を選択し、「次へ」をクリックしてください。

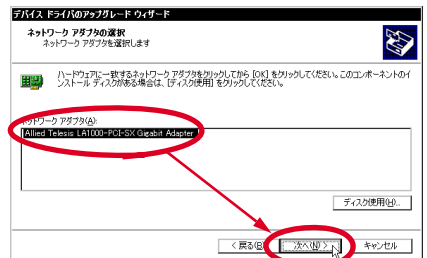


図 4.5.10

12 インストールされるドライバーが「LA1000-PCI-SX」のものであることを確認して、「次へ」をクリックしてください。

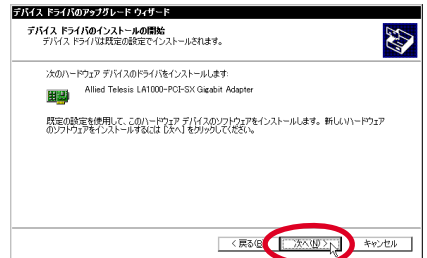


図 4.5.11

13 「はい」をクリックしてください (Microsoft デジタル署名はありませんが正常に動作します)。

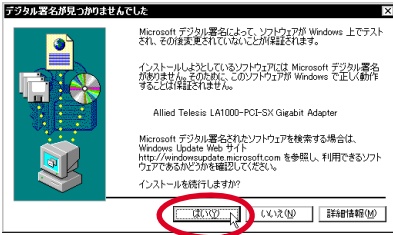


図 4.5.12

14 「完了」をクリックしてください。

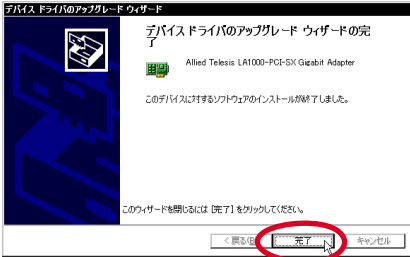


図 4.5.13

15 「閉じる」をクリックしてください。

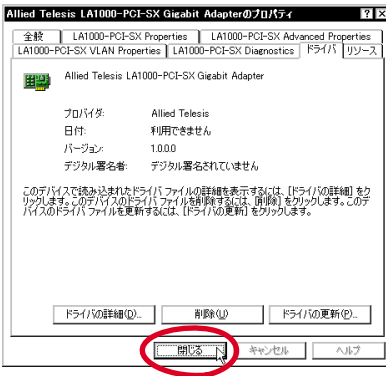


図 4.5.14

16 「はい」をクリックしてください。

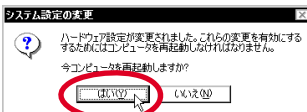


図 4.5.15

4.6 本製品を一時的に使用しないとき

ドライバーのインストール後、一時的に本製品を使用しない場合、例えば光ファイバーケーブルを本製品から外しているとき、ドライバーを無効にしてください。¹

- 1 「スタート」、「設定」、「コントロールパネル」の「システム」をダブルクリックしてください。
- 2 「システムのプロパティ」で「ハードウェア」タブをクリックし、「デバイスマネージャ」をクリックしてください。
- 3 「Allied Telesis LA1000-PCI-SX Gigabit Adapter」を右クリックし、「無効」をクリックしてください。

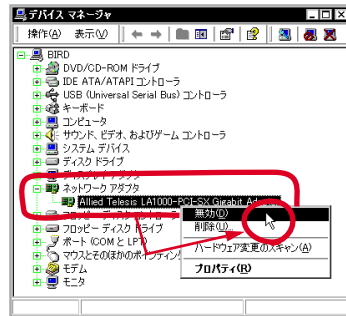


図 4.6.1

4 「はい」をクリックしてください。



図 4.6.2

5 「LA1000-PCI-SX」のアイコンに「×」が付き、ドライバーは停止します。「デバイスマネージャ」を閉じてください。

1. ドライバーを有効のままにしておくと、Windows 2000はネットワークのエラーとして検出し、イベントビューアに警告を出力します。

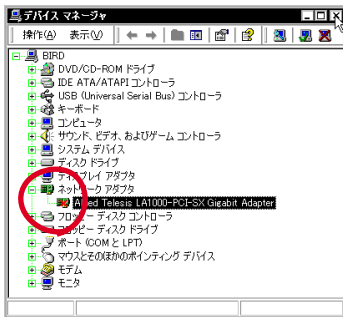


図 4.6.3

- 6 「コントロールパネル」 「ネットワークとダイヤルアップ接続」 「ローカルエリア接続¹」アイコン²のテレビ画面は灰色に変わります。

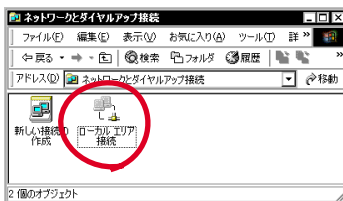


図 4.6.4

使用を再開する

- 1 「Allied Telesis LA1000-PCI-SX Gigabit Adapter」を右クリックし、「有効」をクリックしてください。

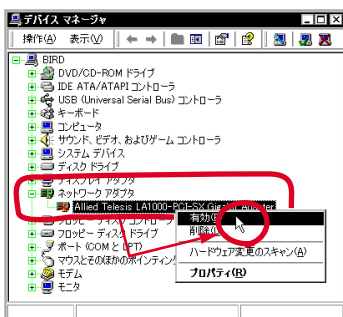


図 4.6.5

- 「ローカルエリアの接続」アイコンを右クリックし、「無効にする」または「有効にする」を選択しても同じ結果となります。
- インストールされている LAN アダプターの数だけ「ローカルエリアの接続」アイコンが表示されます。

- 2 「x」が消え、ドライバーは動作を再開します。「デバイスマネージャ」を閉じてください。

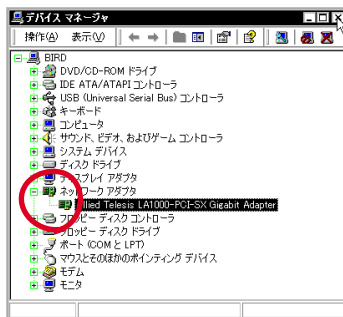


図 4.6.6

4.7 ドライバーの削除（本製品の取り外し）

ドライバーの削除は、本製品をコンピュータから取り外してしまいたいときなどに行います。

- 「スタート」 「設定」 「コントロールパネル」の「システム」をダブルクリックしてください。
- 「システムのプロパティ」で「ハードウェア」タブをクリックし、「デバイスマネージャ」をクリックしてください。
- 「Allied Telesis LA1000-PCI-SX Gigabit Adapter」を右クリックし、「削除」をクリックしてください。

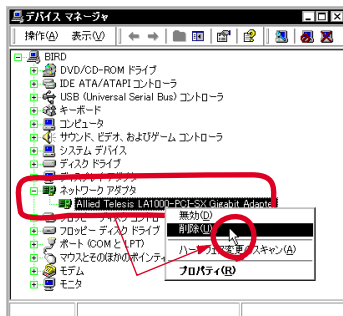


図 4.7.1

- 4 「OK」をクリックしてください。



図 4.7.2

5 Windows 2000 をシャットダウンしてください。

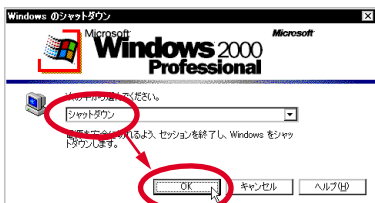


図 4.7.3

6 以後、「2.2 コンピュータからの取り外し」(p.8)の手順に従ってください。

4.8 ドライバーの設定

「Allied Telesis LA1000-PCI-SX Gigabit Adapter のプロパティ」には、本製品独自の設定項目として、以下のタブがあります。これらの詳細に関しては、Windows NT Ver.4.0 の「3.9 ドライバーの設定」(p.15)をご覧ください。

- LA1000-PCI-SX Properties
本製品のステータス情報の表示と、Locally Administered Network Address の設定を行います。
- LA1000-PCI-SX Advanced Properties
本製品に関する高度な設定を行います。
- LA1000-PCI-SX VLAN Properties
VLAN に関する設定を行います。「VLAN Capabilities」のチェック項目を変更した場合、変更を有効にするために、コンピュータを再起動しなければなりません。
- LA1000-PCI-SX Diagnostics
本製品の基本的な機能のテスト（自己診断）や、ネットワークを経由した他のLANアダプターとの通信をテストします。



図 4.8.1

4.9 トラブルシューティング

本製品のプロパティに「詳細」タブがある

Windows 2000 において、「Allied Telesis LA1000-PCI-SX Gigabit Adapter のプロパティ」に「詳細設定」タブが現れる場合、「4.3 ドライバーの新規インストール」(p.18)の22以降を実行してください。ドライバーの再ロードにより正しいプロパティが表示されるようになります。

この「詳細設定」の内容は、Plug & Playによって自動的にインストールされた「Level One」のドライバーのプロパティであり、本製品では使用できません。

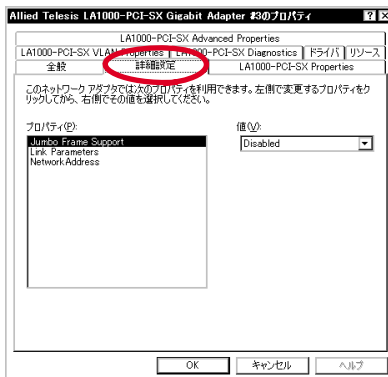


図 4.9.1

「近くのコンピュータ」が表示されない

「マイネットワーク」「近くのコンピュータ」に自分自身しか表示されない場合(下図では「Bird」)、「ネットワーク ID」の設定をご確認ください。

5 ネットワークのトラブル

「通信できない」とか「故障かな?」と思われる前に、以下のことを確認してください。

LINK LED は点灯していますか?

LINK LED は、接続先機器と正しく接続されている場合に点灯します。LINK LED は、本製品と接続先機器の両方に存在します。本製品と接続先機器の両方の LINK LED が点灯していることを確認してください。どちらか一方しか点灯していないまたは両方とも点灯しない場合は、以下のことを確認してください。

- 接続先機器の電源がオンになっているか確認してください。
- 光ファイバーケーブルがしっかり接続されているか確認してください。
- 光ファイバーケーブルがクロス接続 (TX RX, RX TX) になっているか確認してください。
- 光ファイバーケーブルが断線していないか確認してください。
- 接続先機器の特定のポートが故障している可能性もあります。光ファイバーケーブルを別のポートに差し替えて、正常に動作するか確認してください。
- 本製品の通信モードは、デフォルトで「Auto Negotiation」に設定されています。本製品、接続先機器の通信モードを確認し、次の表の組合せとなるように変更してみてください。詳細は、「3.9 ドライバーの設定」(p.15) をご覧ください。

表 5.0.1 通信モードの可能な組合せ^{a)}

	接続先機器		
	Auto-Nego	Full Duplex	Half Duplex
Auto-Nego		-	-
Full Duplex	-		-
Half Duplex	-	-	

a. 「-」は組合せ可能、「-」は組合せ不可を表します。

- 正しい光ファイバーケーブルを使用しているか確認してください。また、光ファイバーケーブルの長さが制限を越えていないか確認してください。1000BASE-SX の場合、使用するケーブルの「コア径」や「伝送帯域」によって最大距離が異なります。「2.3 ネットワークへの接続」(p.8) をご覧ください。

LINK LED は点灯しているが...

LINK LED は点灯しているが、通信が遅い、通信ができないなどの障害が発生している場合、以下のことを確認してください。

- 接続先機器の特定のポートが故障している可能性もあります。光ファイバーケーブルを別のポートに差し替えて、正常に動作するか確認してください。



図 4.9.2

- 1 「スタート」 「設定」 「コントロールパネル」の「システム」をダブルクリックしてください。
- 2 「ハードウェア」をクリックし、「プロパティ」をクリックしてください。

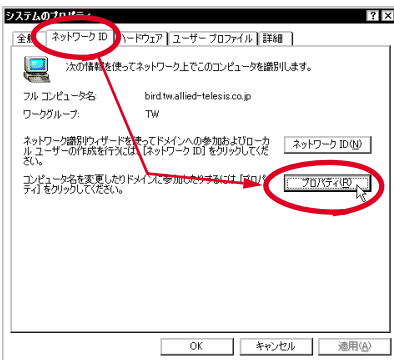


図 4.9.3

- 3 「コンピュータ名」、「次のメンバ」が正しく設定されているか確認してください。

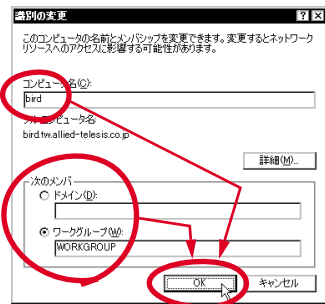


図 4.9.4

- 正しい光ファイバーケーブルを使用しているか確認してください。また、光ファイバーケーブルの長さが制限を越えていないか確認してください。1000BASE-SX の場合、使用するケーブルの「コア径」や「伝送帯域」によって最大距離が異なります。「2.3 ネットワークへの接続」(p.8)をご覧ください。
- 本製品の通信モードは、デフォルトで「Auto Negotiation」に設定されています。本製品、接続先機器の通信モードを確認し、「表 5.0.1 通信モードの可能な組合せ」(p.29)となるように変更してみてください。詳細は、「3.9 ドライバーの設定」(p.15)をご覧ください。
- ジャンボフレームを使用するためには、最終的な通信相手となる LAN アダプター、通信の経路に存在する機器（スイッチなど）がジャンボフレームを使用可能でなければなりません（「LA1000-PCI-SX Advanced Properties」(p.15)）。

自己診断テスト

本製品内部におけるループバックテスト、最終的な通信相手となる LAN アダプターと本製品との間のループバックテストが可能です。このループバックテストによって、物理層の通信テストを行うことができます。詳細については、「LA1000-PCI-SX Diagnostics」(p.17)をご覧ください。

A 付録

A.1 製品仕様

サポート規格

IEEE 802.3z 1000BASE-SX
PCI ローカルバス仕様 Rev.2.1

1000BASE-SX インターフェース

コネクタ：SC 型
波長：850nm
送信光パワー：- 5.5 ~ 9.5dBm
受光感度：0.0 ~ - 17.0dBm

ホスト・インターフェース

32 または 64bit 幅 PCI バス（バスマスター）¹

使用するハードウェア資源²

割り込み（IRQ）：1 チャネルを使用（レベルトリガー）
I/O アドレス：連続した 256 バイトを使用
メモリー：連続した 1024 バイトを使用

外形寸法・重量

外形寸法：165.0 mm × 95.0 mm（ブラケット部分を除く）
重量：約 90 g

電気的仕様

動作電圧：DC + 5.0V ± 5%
最大消費電流：380mA@5.0V

環境条件

動作保証温度：0 ~ 55
動作保証湿度：95%以下（但し、結露なきこと）
保存温度：- 20 ~ 65
保存湿度：95%以下（但し、結露なきこと）

電気雑音の発生防止

雑音端子電圧：VCCI クラス B
雑音電界強度：VCCI クラス B

この機器は、情報処理機器等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス B 情報技術機器です。この機器は家庭環境で使用することを目的としていますが、この機器がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。

- コンピュータの BIOS で PCI の Latency Timer が設定できる場合その最適値は 40（範囲は 20 ~ 255）。
- これは PCI ローカルバス仕様により自動的に設定されます。

A.2 MAC アドレス

イーサネットに接続される機器は、MAC アドレス¹と呼ばれるアドレスを使って通信を行います。MAC アドレスは機識（LAN アダプター）のひとつひとつに割り当てられた唯一無二のアドレスです。

MAC アドレスは、下記の 6 バイト（48 ビット）によって構成されており、本製品の内部に書き込まれているため、ユーザーが変更することはできません。本製品の MAC アドレスは、製品に貼付されている MAC アドレスラベルに記入されています（表記は全て 16 進数）。

00 _____ 90 _____ 99 _____ xx _____ xx _____ xx _____
ベンダー ID 通し番号

・ベンダー ID

LAN ベンダー（LAN 用機器を製造しているメーカー）が IEEE に申請することにより得られる識別番号。

・通し番号

この番号は、当社が製品を識別するために割り当てたもので、本製品は、「1B」から始まる 6 桁の数値となっています。この通し番号と本製品の「シリアル番号シール」の番号に関連はありません。

B 保証

本製品に添付されている「製品保証書」の「製品保証規定」をお読みになり、「お客様インフォメーション登録カード」に必要事項を記入して、当社「お客様インフォメーション登録係」までご返送ください。「お客様インフォメーション登録カード」が返送されていない場合、障害発生時のユーザーサポートや修理などを受けられません。

保証の制限

本製品の使用または使用不能によって生じたいかなる損害（人の生命・身体に対する被害、事業の中断、事業情報の損失またはその他の金銭的損害を含み、またこれらに限定されない）については、弊社はその責をいっさい負わないこととします。

C ユーザーサポート

障害回避などの技術的なサポートを受ける場合は、巻末の「調査依頼書」をプリントアウトしたものに必要事項を記入し、下記にファクスしてください。できるだけ電話による直接の問い合わせは避けてください。ファクスによって詳細な情報を送付していただく方が、電話による問い合わせよりも早く問題を解決することができます。記入内容の詳細については、「C.1 調査依頼書のご記入にあたって」

1. MAC アドレス（マックアドレスと読みます）は、物理アドレス、ネットワークアドレス、イーサネットアドレスなどと呼ばれることもあります。また、MAC アドレスは、TCP/IP の環境で使用される IP アドレスに関係がありますが、これらは別々のものです。

をご覧ください。なお、都合によりご連絡の遅れることもございますので、予めご了承ください。

アライドテレシス株式会社 サポートセンター

Tel: ☎ 0120-860-772

月～金（祝・祭日を除く）9:00-12:00、13:00-18:00
土（祝・祭日を除く）10:00-17:00

Fax: ☎ 0120-860-662

年中無休 24 時間受け付け

C.1 調査依頼書のご記入にあたって

調査依頼書は、お客様のご使用環境で発生した様々な障害の原因を突き止めるためにご記入いただくものです。障害を解決するためにも以下の点にそって、十分な情報をお知らせください。記入用紙で書き切れない場合には、別途プリントアウトなどを添付してください。

ハードウェアとソフトウェア

- 1 ご使用製品のシリアル番号、製品リビジョンをご記入ください。それらは、本製品に貼付されたシリアル番号シールに記載されています。

(例)



- 2 ドライバーディスクのバージョン
現在ご使用の LAN アダプター用ドライバーディスクのバージョンをご記入ください。

(例) Ver.1.0 Pl.0

- 3 当社の LAN アダプターが装着されているコンピュータのメーカー名、機種名、ご使用になっている OS 名とそのバージョンをご記入ください。

(例) Sotec、PC STATION M250V、Windows NT 4.0 Workstation、サービスパック 5

- 4 当社の LAN アダプターと併用しているその他の周辺機識（拡張アダプターなど）のメーカー名、機種名をご記入ください。

(例) Creative Labs、Sound Blaster 16 Plug and Play

- 5 お客様の環境におけるサーバーのメーカー名、機種名、使用 OS 名とバージョンをご記入ください。

(例) ヒューレットパカード製、NetServer LC3、Microsoft 製、Windows NT 4.0 Server、サービスパック 5

- 6 可能であれば「システム情報レポート」を添付してください。「システム情報レポート」を添付していただいた場合、「システム情報レポート」に記載されている項目の、調査依頼書への記入は省略していただいてもかまいません。詳細は、「C.2 システムレポートの出力方法 (p.32)」をご覧ください。

お問い合わせ内容

1 トラブルの発生時期

設置中に起きている障害であるか、設置後の運用中に起きている障害であるかをご記入ください。運用中に起きている障害の場合、設置してからどのくらい経過してからの障害かをご記入ください。

2 どのような症状が発生するのか、それはどのような状況で発生するのかをできる限り具体的に（再現できるように）記入してください。

3 エラーメッセージやエラーコードが表示される場合には、表示されるメッセージの内容のプリントアウトなどを添付してください。

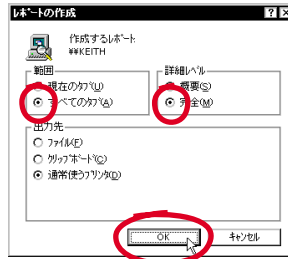


図 C.2.2

接続の構成図

1 ネットワークとの接続状況や、使用されているネットワーク機器がわかる簡単な図を添付してください。

C.2 システムレポートの出力方法

システムレポートは、Windows 2000、Windows NT が自動生成するシステムに関するレポートで、以下の手順で印刷することができます。

Windows NT Version 4.0 の場合

1 「スタート」 「プログラム」 「管理ツール（共通）」 「Windows NT 診断プログラム」と進み、「Windows NT 診断プログラム」を起動します。

2 「印刷 (N)...」をクリックします。



図 C.2.3 システムレポートの出力例

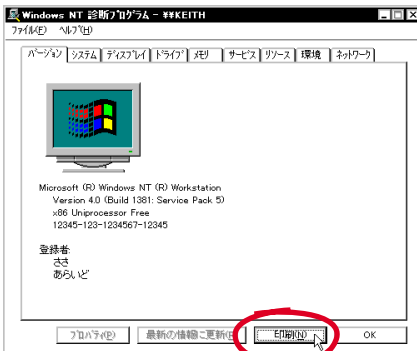


図 C.2.1

3 「レポートの作成」が表示されます。「範囲」は「すべてのタブ (A)」、「詳細レベル」は「完全 (M)」を選択し、「OK」をクリックしてください。

Windows 2000

1 「スタート」 「設定」 「コントロールパネル」 「管理ツール」と進み、「コンピュータの管理」を起動してください。



図 C.2.4

2 「システム情報」の下にある項目から必要な項目を「印刷」してください。

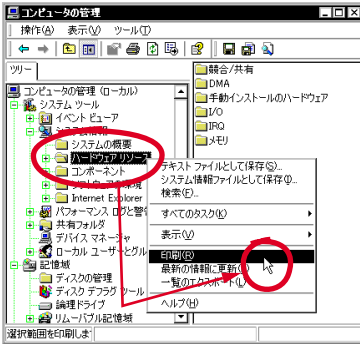


図 C.2.5

C.3 最新ドライバーソフトウェアの入手方法

当社は、改良などのために予告なく、本製品のドライバーのバージョンアップやパッチレベルアップを行うことがあります。最新のドライバーソフトウェアは、次の2つの方法で入手することができます。

ホームページからの入手

- 1 Microsoft Internet Explorer、Netscape Navigator などの Web ブラウザを使用して、アライドテレシスのホームページ「<http://www.allied-teleasis.co.jp/>」にアクセスします。
- 2 「サポート」の「ダウンロード」をクリックしてください。
- 3 「LAN アダプター・ドライバー一覧リスト」をクリックしてください。
- 4 LAN アダプターの一覧から選択してください。

フロッピーディスクでの入手

当社のカスタマー・マーケティング (Tel: 0120-860-442、9:00 ~ 17:30 / 月 ~ 金) までお問い合わせください。実費にて最新ドライバーのフロッピーディスクをご提供いたします。



お問い合わせ内容

トラブルの発生時期： セットアップ中に起こっている障害 セットアップ後、運用中に起こっている障害

接続の構成図

簡単で結構ですからご記入をお願いします。

D ご注意

- ・本マニュアルは、アライドテレシス株式会社が作成したもので、全ての権利をアライドテレシス株式会社が保有しています。アライドテレシス株式会社に無断で本書の一部または全部を複製することを禁じます。
- ・アライドテレシス株式会社は、予告なく本マニュアルの一部または全体を修正、変更することがありますのでご了承ください。
- ・アライドテレシス株式会社は、改良のため製品の仕様を予告なく変更することがありますのでご了承ください。
- ・本製品の内容またはその仕様に関して発生した結果については、いかなる責任も負いかねますのでご了承ください。

©2000 アライドテレシス株式会社

E 商標について

- ・CentreCOMはアライドテレシス株式会社の登録商標です。
- ・Windows、Windows NT は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
- ・その他、この文書に掲載しているソフトウェアおよび周辺機器の名称は各メーカーの商標または登録商標です。

F マニュアルバージョン

2000年 02月 16日 Rev.A 初版

アライドテレシス株式会社

PN J613-M3512-00 Rev.A 000216